

プレゼンテーション | 学生 → 企業

チーム名 あこがれ

**提案** 日本を訪れる外国人の  
食事・交通・安全を支える

ムスリムなど食事制限のある外国人のために、看板にスマホをかざすだけで対応メニューの有無がわかる「食事案内アプリ」、駅構内などで外国人がヘルプを出すと近くの日本人に通知が届き、スムーズに案内ができる「声かけアプリ」、パスポート盗難者を察知したり、スマホとビーコン付きパスポートが離れたときに知らせてくれる「パスポートの紛失防止アプリ」を提案。

[参加学生]利根川萌、加藤 環、長岡華菜子、本宮明日香



チーム名 絆COLORFUL

**提案** 横浜&みなとみらいを  
スマホアプリでナビゲーション

ショッピングモール、テーマパークなどが集中し、外国人・旅行者・老若男女が集う「横浜」を快適に訪問することができるナビゲーションを提案。目的の場所までの最短ルートを案内したり、駐車場・フードコート・アトラクションの混雑状況をヒートマップや人感センサーによりリアルタイムで確認できたり、店舗や商品の最新情報発信をプッシュ通知で可能にする。

[参加学生]齋藤瑞希、小内 華、梅村智絵、伊藤リカ



チーム名 QUINTET

**提案** 高齢者を守る  
ビーコンプロジェクト

「健康を測る」体調管理リストバンドで、心拍数、位置情報、脱水症状などを管理し、スーパー銭湯での事故防止、介護施設・病院で急病の早期発見に活用する。また、物忘れを未然に防ぐビーコンとして、忘れ物をするアラームバイブレーションで警告する機能、高齢者の徘徊を知らせる機能、忘れ物の位置を特定する機能、あるべきものがそこにあることを認知する機能を提案。

[参加学生]加藤早織、神谷侑里、松戸響子、高羽沢甘奈、永谷優奈



ICT(情報通信技術)の  
「EXBeacon」を用いた  
新ビジネスの提案

最新のICTソリューション=EXBeacon。  
それを使ってどんなビジネスが可能か。  
学生らしい自由なアイデアと発想力に期待!

株式会社協和エクシオが手がけている  
ICT(情報通信技術)ソリューションの1つが  
「EXBeacon」。未知の難しいテーマに  
清泉女子大学の13名の学生が挑みました。

中間発表後、  
社員から直接  
アドバイスをもらう



そこにはないもの認知!

ホテルの部屋のキーを持たずに外出しようとするすると玄関前のプザーで警告するなど、ホテルのオートロックによる締め出し防止にも応用できることを提案しました。

最初のワークは  
チーム名の  
ロゴづくり!



オリエンテーションでは、企業から出された課題に取り組む前に、まずはチーム名と、チーム名入りのロゴをつくるワークからスタート。各チームともわずか15分ほどでチーム名が決定。カラフルなペンによる手描きのロゴは各資料の巻頭ページを飾りました。

グラフや図を用いて  
見やすい工夫が  
されたプレゼン資料

ビーコンの活用案(フードコート)

- ・ヒートマップを利用
- ・人感センサーを利用
- スマートフォンに情報を共有
- リアルタイムで混雑状況の確認が可能

「健康」の見える化

「物忘れ」の見える化

難しいテーマに  
不安いっぱい船出

このことは難しく、ビーコン自体への質問が相次ぐなど、不安を抱えての船出となりました。

中間発表の辛口評価が  
生きた発表

協和エクシオは、情報通信のインフラ構築を主な事業とし、NTTグループやKDDI等の通信事業者向けに通信インフラを整備しています。また、長年培ってきた環境・土木・電気設備技術などを活用した都市インフラの構築にも進出し、街の景観を重視しての電線類の地中化、ゴミ処理施設の建設なども手がけています。さらに、今後拡大を図ろうとしているのがICTソリューションで、その一つが今回のテーマの「EXBeacon」です。

2日目のワークショップでは、3チームごとにビーコンの活用アイデアを出し合い、「守る」「集う」「外国人」をキーワードにテーマが集約されていきました。3日目には方向性がほぼ固まり、早くも資料作りにとりかかるチームも。一方で、テーマを絞ることのできないチームに、他のチームがアドバイスをしたり、資料を提供するなどフォローする姿が見られました。

EXBeaconとは、エクシオグループの株式会社WHEREが開発した、端末が相互通信するメッシュネットワーク機能を搭載した次世代ビーコンで、GPSの届かない屋内、たとえば工場やオフィス、地下街などの限られた施設空間に配置することで、人・モノの位置を測り、様々なセンサー情報を収集できます。すでにオフィスや工場に導入され、従業員やモノの位置把握、ゲート認証、温湿度管理などに活用されているとのこと。初日のオリエンテーションでは、実際に、協和エクシオのオフィスレイアウトをスマホで見ながら、社員の位置をリアルタイムで把握するデモンストラーションも行われました。

しかし、学生たちにとって、未知のビーコンをすぐに理解することは難しく、5日目では、前回の評価をうまく反映できず、方向が変わってしまったチームが出現。ワーク終了後も近くのカフェで話し合いを続け、再度内容をまとめ直し、急ピッチで資料を仕上げました。

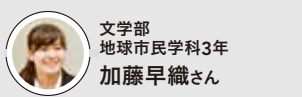
協和エクシオ本社で行われた最終日の成果報告会では、10人の社員が出席。全チームとも、手元の資料に視線を落とすことなく、社員を見ながら、ゆつくり丁寧に身振り手振りを交えながら堂々と発表を終えました。その姿勢が、その後の講評で高評価され、内容についても、中間発表に参加した社員から「前回とは見違えるまでに成長していて感動した」との声が。また、「グラフなど数字の根拠が示されていたので説得力があった」との評価もいただきました。

オリエンテーション | 企業 → 学生



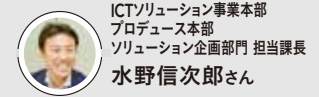
情報通信建設会社の協和エクシオが、今後拡大を図っているというところからシステムソリューションの分野です。そこで、グループ会社が開発した画期的な次世代ビーコンのEXBeaconを利用した新ビジネスの提案が、今回のテーマとして提示されました。EXBeaconはGPSの届かない屋内に配置することで人・モノの位置を測るとともに様々なセンサー情報を収集することができます。これらの特性を活かして、どのようなビジネス提案ができるのか、学生たちに求められました。

PBLを終えて



文学部  
地球市民学科3年  
加藤早織さん

チームで意見をまとめる際に、メンバーの発言の裏にある気持ちまで汲み取ったり、チームワークの大切さを学ぶことができました。また、今後の就活を前にして、いままでは知らなかったBtoBの企業にも目を向けてみようという視野が広がりました。



ICTソリューション事業本部  
プロデュース本部  
ソリューション企画部門 担当課長  
水野信次郎さん

難しいテーマに対して、「ビーコンでできることは何か」ではなく、「ビーコンでやりたいことは何か」と学生らしい柔軟な発想をした上で、さらに社員の立場に立って、ビジネス展開を考えていただけに感謝しています。

University Company



清泉女子大学  
聖心侍女修道会を設立母体とし、1950年、4年制女子大学として創立。キリスト教ヒューマンズムの精神に則り、少人数教育を実践している。



協和エクシオ  
1954年創立。総合エンジニアリング企業から「ICTイノベーション&エンジニアリング企業」を目指す。連結売上高3,126億円(2018年3月期)。